

【石の俗称】

みちのく石便り(その4) 岩手の石と岩

加藤 碩 一¹⁾

東北新幹線が八戸まで延伸され、北東北が今注目を浴びています。今回のみちのく石便りは、北東北3県の1つである岩手県のあちこちの石・岩を紹介してみましょう(第1図)。なかなかの興味深いものがありますよ。

1. 県都「盛岡」周辺あれこれ

岩手県の県庁所在地である盛岡市は、宮城県仙台市と並んで「杜の都」と称される美しい街。岩手巡りはこの街から始めましょう。



第1図 位置図。1:盛岡, 2:遠野, 3:宮古, 4:狛鼻溪, 5:巖美溪, 6:千厩。

(1)「岩手」の由来となった石

盛岡駅の東北方へ約4kmほどの山沿いに三ツ割地区があります。その一角、盛岡駅から2kmほどの所に東顕寺や三ツ石神社があります。三ツ石神社には3つの巨大な花崗岩塊が鎮座しており、「鬼の手形(石)」と呼ばれています。径10cm以下の暗色のゼノリス(捕獲岩)が散在する特徴的な花崗岩です。岩塊のうち2つは高さ約6m, 残りの1つはやや小ぶりです(写真1)。

一説によると盛岡市北西に位置する岩手山が噴火したとき飛来したと伝えられていますが、これは怪しいというか間違いでしょう。岩手火山の基盤は、主に玉川溶結凝灰岩(第四紀更新世。約200万年前~100万年前の噴出)です。ところが、神社の岩塊は花崗岩で、しかも巨塊です。基盤のより深部に花崗岩が伏在し、それが噴火時に放出されたという可能性も否定できませんが、それにしても巨



写真1 鬼の手形(石)。

1) 産総研 東北センター

キーワード: 鬼の手形(石), 石割桜, 五百羅漢, 羽黒岩, 続石, 弁慶の枕石, 泣石, 猫石, 不動岩, 浄土ヶ浜, ローソク岩, 狛鼻溪, 鏡明岩, 藤岩, 凌雲岩, あまよけの岩, 夫婦岩, 壮夫岩, 少婦岩, 錦壁岩, 屏風岩, 馬鬣岩, 獅子ヶ鼻, 仙帯岩, 大狛鼻岩, 巖美溪, 鬘石, 陰陽石

大すぎます。おそらく周辺に分布する白垂紀花崗岩質深成岩体から河川で運搬された巨礫でしょう。

その昔、羅刹という鬼が悪行をなし里人が難儀していたところ、三ツ石神が鬼を捕らえ石の中に閉じ込めようとしたと言いつたといわれています。鬼がお詫びの印にと岩に手形を押し、以来「岩手の里」と呼ばれるようになったそうです。

別の言い伝えでは、坂上田村麻呂の蝦夷征討時に3人の蝦夷の酋長が帰服して、二度とこの地方に来ないという証におのおの大石を立てて石の表面に手の形を押し置いたとも言います。このため、その地を「不來方」と呼ぶようになったともいいます。慶長年間(1596~1615)に南部信直がこの地に「不來方城」を築き、その後城と城下町が拡張・整備され、現在の盛岡市となったわけです。

「三ツ割」という地名もこの岩塊が一つの石が3つに割れたように見えることからつけられたようです。(小形, 1976)。

(2) 北の石割桜

JR盛岡駅から徒歩15分ほどの盛岡市中心部に「石割桜」があります(写真2)。ここは旧南部藩家老であった北家の屋敷跡であり、現在では盛岡地方裁判所の構内となっています。

石割桜の案内板に書かれている英語名称は「The Rock-Splitting Cherry Tree」です。欧米人に通ずるのでしょうか？

約350年前に落雷によって割れた石の割れ目に桜の種が入り込んで、その後発芽成長して今日のようになったといわれています。桜の木が断ち割ったようになっている岩は、周囲が21mに達する花崗岩質岩塊で、「鬼の手形(石)」と同様の岩質で



写真2 石割桜。

す。桜はシロヒガン桜(エドヒガン)で、樹齢350年前後(400年という説もありこのへんはあいまいです)です。つまり前述の約350年前に落雷というのはこれに合わせた話でしょう。

幹の周囲4.6m、樹高10.8m、枝張りは東西に17m、南北に12.8mだそうです。大正12年(1923)国の天然記念物に指定されました。ちなみに大正12年は関東大震災が発生した年ですね。また「石割桜」は、ここだけではなく長野県北佐久郡望月町にもあります。安山岩の節理面に樹齢80年ほどの山桜が自生したものです。さらに、石を割るのは桜だけではなく、長野県茅野市永明寺山上原城跡には、花崗閃緑岩の割れ目に育つ「石割松」があります。

2. 「遠野物語」と石

柳田民俗学の白眉といえば「遠野物語」でしょう。この物語の里にも様々な石や岩があります(第2図)。花巻市からJR釜石線に乗り換えて「遠野



第2図 遠野地方の奇石・奇岩。



写真3 五百羅漢.



写真4 羽黒岩.

駅に行くことができますが、最近では仙台駅から直行高速バスがでており、片道3時間と実に便利になりました。

(1) 遠野花崗岩

遠野市周辺には遠野花崗岩が広く分布しており、これが侵食風化ないし人工的に削られて以下の俗称を持つ石群をなしているのです。遠野花崗岩体は、露出面積615km²に達する北上山地で最大規模の白亜紀深成岩体です。岩質は、後述する千厩岩体と同じく、おもに石英閃緑岩・トーナル岩・花崗閃緑岩からなっており、若干の塩基性岩を伴います。また、遠野花崗岩体のSiO₂の含有量は54～75%と広範囲なのが特徴です。構成鉱物などの配列方向からしづく状の断面形状を持つことが推定されています。

遠野の主な観光スポットは街の北東側に多くありますが、石の探訪には猿ヶ石川沿いに盛岡方面に向かいます。

(2) 五百羅漢

遠野駅から南西へ約2kmほどの駒倉山麓に「五百羅漢」(写真3)があります。大小の花崗岩塊に500体ほどの羅漢像が刻まれています。

遠野地方では宝暦三年(1753)の凶作、宝暦四年(1754)の不作・洪水、宝暦五・六年(1755～1756)の凶作と続き、遠野領内だけで2,500人を超える餓死者を出しました。天保年間(1830～1844)に大恩寺19世住職義山がこれらの餓死者を追悼するために製作したといえます。

羅漢というのは、「阿羅漢」の略称で、サンスクリ

ット語の「アルハット」やパーリ語の「アラハント」の音訳です。仏教の究極的真理を究めた仏道修行者の最高位に位置する人たちなのです。筆者のような俗人にはただただ仰ぎ見る存在です。釈迦入滅後、教義などの乱れを防ぐため教法や戒律の編集が行われ、それを第一結集といいますが、その時集まったのが「五百羅漢」なのです。ももとの「十六羅漢」「十八羅漢」は定義も明瞭ですが、後世の「五百羅漢」は、大乘仏教布教に伴って、民衆の信仰心を高めるために定められたようです。各地に「羅漢岩」や天然の岩群を「五百羅漢」と称するものもありますが、それはまた別の機会に紹介しましょう。

(3) 羽黒岩

五百羅漢から西方へ約1.5km、猿ヶ石川の北岸の丘の中腹に「羽黒岩」(写真4)があります。この花崗岩塊は、もとは高さ9mあったといわれています。坂上田村麻呂が蝦夷の宮武を射た矢の鏃が食い込んでいたという矢立松と、おがり(丈)比べをしたところ、「石の分際で樹木と争うなどけしからん」と天狗に下駄で蹴られ上部が欠けたという話があります(遠野物語拾遺第10話)。何故、石が樹木より身分・位が低いのか地質学者には釈然としませんが。

「羽黒岩」を蹴り折った石製の天狗の下駄のモニュメントが「羽黒岩」に続く小道入り口に建てられています(写真5)。立派な鼻緒がついています。

(4) 続石

羽黒岩からさらに西へ4kmほど行ったところに



写真5 羽黒岩を蹴り折った天狗の石下駄(もちろん後世の観光用モニュメントです)。



写真7 泣石。



写真6 続石。



写真8 弁慶の枕石。

「続石」があります。新石器時代から青銅器時代にかけての遺跡といわれる巨石文化の墳墓と称されるドルメン(支石基)です。

国道396号線の道路際に小型のレプリカが建てられており、そこから数百m山麓を登ったところに本物があります。2つ並んだ高さ2mあまりの台石の片方に接して幅7m、奥行き5m、厚さ2mの笠石が乗っており(写真6)、実に見事なものです。

続石の脇に「泣石」があります。「遠野物語」第11話によると、その昔、弁慶が笠石を「泣石」(写真7)の上に乗せたところ、「おれは位の高い石なのに他の石の下になるのは残念だ」といって一晩中泣き続けたので(同じ岩塊にも位の上下があるのですね)、弁慶は、別の台石に乗せなおしたというのです。「泣石」は、奥手に佇立する直方体上の巨大な

岩塊で、今も「続石」の脇で涙のしずくをたらしているといえます。

さて、台石の片方には目の形の窪みがあり、弁慶が笠石を持ち上げる時足をかけたという言い伝えがあり、「弁慶の力石」とも言われます。神社に詣でるのにこれを潜るので鳥居の代わりにしているとも言われています。

「続石」のすぐ横手にある花崗岩の平たい岩塊が「弁慶の枕石」とか「弁慶の昼寝場」(写真8)と称される岩塊です。石を持ち上げるのに疲れた弁慶が昼寝に用いた枕石という洒落でしょう。近くにある「猫石」(写真9)という石のいわれはわかりません。ご存知の方はご一報をといつものように横着しておきます。あしからず。

「続石」に行く途中の枝道に「不動岩」(写真10)



写真9 猫石.



写真10 不動岩.

という巨大な花崗岩塊があります。これは転石ではなく露岩であろうと思われます。岩上に不動尊の小さな石碑が安置されていることから命名されたものでしょう。

3. 宮古海岸・浄土ヶ浜を訪ねる

盛岡からJR山田線で東へ向かうと三陸海岸のど真ん中、宮古駅に到着します。浄土ヶ浜をはじめ、三陸の奇勝・奇岩に出会うことができます(第3図)。

(1) あの世界にも似た絶景「浄土ヶ浜」

先の話ですが、あの世界に行く機会があったら、ぜひとも極楽浄土へ行きたいものですが、現世でも



第3図 宮古海岸・浄土ヶ浜と周辺の奇岩.

擬似体験が可能です。陸中海岸国立公園を代表する景勝地である「浄土ヶ浜」がそれです。

宮古市鉄ヶ崎にあり、天和三年(1683)、宮古の常安寺の僧侶霊鏡が発見し、「さながら浄土のようだ」と言って名づけたといひます。むろん現地の人々は知っていたでしょうから、彼が後世に残る報告をしたためたという意味ですよね。

5万分の1「宮古」図幅(吉田・片田, 1984)によれば、古第三紀(5,200万年前)の灰白色黒雲母流紋岩～黒雲母角閃石デイサイトからなる浄土ヶ浜酸性火山岩類が分布します。中・古生層及び白亜紀前期(1億1千万年前)の花崗岩類を貫く岩脈が主ですが、浄土ヶ浜では水平～40°程度傾く流理構造を呈し小型のラコリス状貫入岩体と推定されています。ラコリスとは水平に近い地層の層理面に沿ってマグマが貫入し、上盤の地層を上方に押し上げた「そなえ餅」状の岩体で、日本語では「餅盤」と呼ばれます。顕微鏡で見ると、少量の斜長石斑晶と、細粒斜長石、高温石英、黒雲母、鉄鉱及び微量のカリ長石からなる完晶質石基からなっています。

浄土ヶ浜酸性火山岩類が、半島状に海中に突き出し、海食によって鋸歯状に並び非日常的な風景をつくっています(写真11)。



写真11 浄土ヶ浜.



写真13 夫婦岩.



写真12 ローソク岩.



写真14 屏風岩.

(2) 周辺海岸の奇岩

遊覧船で周遊するとこのほかにも様々な奇勝・奇岩を見ることができます。まずは「ローソク岩」。浄土ヶ浜の北の大沢海岸（白亜紀前期の原地山層の泥岩を伴うデイサイト質火砕岩が分布）にある高さ約40m、幅7mの岩脈で、国の天然記念物に指定されています。遠方から眺めるとなんとなくローソクに見えることから名づけられました（写真12）。水平方向に見事な節理が発達しています。

大小の近接する岩塊はよくある「夫婦岩」（写真13）、だだっ広い岩壁がこれもよくある「屏風岩」（写真14）です。また、浜の北の沖合い1kmの海上には周囲3kmの無人島である日出島があり、別名軍艦島とも言われます。この島は全島アカマツに覆われ、東半球唯一の夜行性クロコシジロウミツバメの繁殖地として国の天然記念物に指定されています。

この対岸に分布する白亜紀前期宮古層群田野畑層の礫岩に開いた幅約30cmの隙間から波が押し寄せるときに海水が吹き上げられる「潮吹き穴（岩）」があり、やはり国の天然記念物に指定されています。案内によると海が荒れているときには40mも吹き上げるということですが、「そんなときにどうやって高さを測ったのだろうか」などというのはオジサンの嫌味ですよね。

4. 狢鼻溪

(1) 石灰岩がつくった狢鼻溪

岩手県には「浄土ヶ浜」にも負けず劣らずの美景が他にも多々あります。まずはJR東北本線一関駅からJR大船渡線に乗り換えて約30分、5つ目の狢鼻溪駅で降りて徒歩5分で到達する「狢鼻溪」は日



写真15 鏡明岩.



写真16 藤岩.

本百景の1つでもあり、大正14年(1925)に国の名勝に指定されました。北上川の支流砂鉄川沿いの峡谷で高さ数10mから100mを越す絶壁が連なっています。

19世紀半ばの弘化・嘉永の頃、松川(東磐井郡東山町)の百姓三太郎は孝心厚く、伊達慶邦公から愛馬を賜る栄誉を受けたほどであったそうです。三太郎は25歳で妻ト리를迎えました。ひそかに彼を恋慕していた長坂村の娘小夜はこれを憐んで獅子ヶ鼻から身を投げました。狛鼻溪の川砂に混じっている黒い砂鉄は、色黒だった小夜の膚から洗い落ちた物といわれ、溪間を飛び交うカワズメは彼女の化身と言ひ伝えられています。

川くだりの乗船保険付き手漕ぎ遊覧船に乗ると船頭が「げいび追分」を歌ってくれます。この前歌に「清きながれの砂鉄の川に 船を浮かべてさお



(1)



(2)



写真17 凌雲岩(1)遠景(2)近景(矢印部分が顔に見える).

させば 曇り勝ちなる心の空もネ 晴らして呉れます獅子ヶ鼻」とあります。

この渓谷には南部北上山地に広く分布する古生代の堆積岩類の一部である石炭紀～二畳紀の石灰岩が分布して、様々な侵食地形を見せており、石の俗称の宝庫となっています。

(2) 遊覧船で奇岩めぐり

遊覧船でめぐってみましょう。船着場を離れてすぐ右岸にあるのが「鏡明岩」(写真15)、大きな鏡を立てかけたような岩肌に水面の反射光がきらめく様から命名されたとのことです。この滑らかな面は断層面か節理面かはよくわかりませんが、比較的平滑な崖面をなしています。

次に左岸にあらわれる大きな崖が「藤岩」(写真16)です。名称は岩には無関係で、たくさんの藤のつるが岩肌に絡みついており、春には藤の花で鮮やかな薄紫色に染まって見えることから命名されたそうです。写真でお気づきのように、崖の上部が白っぽくみえます(矢印部分)。これは、2003年5月26日に宮城県沖で発生し、最大震度6弱を記録した地震(M7.0、震源の深さ約70km)で崩落した部分です。落下した岩塊は邪魔なので砕いて岸辺に埋めてしまったそうです。

続いて左岸に「凌雲岩」(写真17(1))が出現します。初夏に雲がたなびくように川霧が立ち込め、雲



写真18 あまよけの岩.



写真20 猯鼻溪の夫婦岩(少婦岩)(黒い影部分が左向き
の女性横顔に見える).



写真19 猯鼻溪の夫婦岩(壮夫岩).



写真21 錦壁岩.

間に見え隠れするという意味に由来するといいま
す. 単なる崖ですが写真17(2)の矢印の部分が顔
のように見えることが売りです.

対岸にある「あまよけの岩」は、岩塊の下部(写
真18の下方)が侵食されノッチ状となり、ひさし
のように水面上に張り出しています. ここで船が雨宿
りをしたことに由来するそうです.

「夫婦岩」は、左岸の「そうふうがん壮夫岩」と右岸の「しょうふうがん少婦岩」
を対にして呼びます. 「壮夫岩」(写真19)は美麗
な岩峰をなし、ポスターにもよく使われています.
「少婦岩」は女性の横顔に見えます(写真20. 黒

く影になっている部分). 船が近づくとつれて壮
夫岩に寄り添うように見えることからその名があり
ます.

「きんぺきがん錦壁岩」は、節理の発達した岩肌を綾にみなし
て秋の紅葉の時期に赤や黄色の葉に覆われるさま
から命名されたものです(写真21). 「屏風岩」は、
その名の通り絶壁状の単純な崖ですので、写真は
省略します.

その先の左岸にある「ばりょういわ馬鬣岩」は、岩の稜線が馬
の首状を呈し、そこに連なる松の木々が鬣の様に
見えることからの命名です(写真22). 岩と木の合



写真22 馬巖岩.



写真24 仙帯岩.



写真23 獅子ヶ鼻.



写真25 大狨鼻岩.

わせ技一本というところす。

げいび橋をくぐると右岸の大岩壁の中ごろ下部に「獅子ヶ鼻」と呼ばれる突起部があります(写真23)。狨鼻の名称もこれに由来します。遠目には一部石灰岩が雨水で溶食されたように見えます。まさに獅子ヶ鼻です。その隣の「仙帯岩」は石灰岩の暗色部が帯状に幾筋も走っていることから名づけられました(写真24)。舟下りの最奥にそびえる大岩壁が、その名も「大狨鼻岩」です。直立に近い崖面は圧倒的です(写真25)。

機会があったら、ぜひ「げいび溪舟下り」をお楽

しみください。

5. 巖美溪から平泉へ

(1) 方状節理と甌穴の巖美溪

今度は西方へ足を伸ばしましょう。JR東北新幹線一関駅から西へ約8km、磐井川中流に国の名勝天然記念物に指定されている「巖美溪」があります(写真26)。バス停巖美溪を下車し、目の前の天工橋を渡ります。近くには松島とともにこの地を愛ししばしば訪れた伊達政宗ゆかりの茶屋跡「臨泉亭



写真26 巖美溪.



写真27 鬘石.

跡」もあります。

江戸時代中期の紀行家である菅江真澄がここを訪れ感嘆して「落ちたきの なみいつくしく わきかへり いろどる筆の えやはをよばん」と歌ったのを始め、幸田露伴など多くの文人が訪れています。

この溪谷に分布する岩石はこの付近を模式地とする巖美層です。宮城・岩手県境付近に分布し、主に栗駒山から噴出した軽石凝灰岩からなっています。その多くが溶結しており、陸上に堆積したことを示しています。基底礫岩を伴い、その上部に層厚数mの凝灰質砂岩・シルト岩互層があり、亜炭薄層を挟みます。新第三紀中新世後期の秋保層に対比され、全層厚は100mに達します。下位の中新世中期の黒沢層を不整合に覆っています。

2kmにわたる溪谷の谷底には方状節理が発達し、あちこちに甌穴(ポットホール)ができて、見事な侵食地形が続きます。しかし、狛鼻溪と違ってこの岩には特段の俗称が付けられていないのが筆者にはものたりません。ここでは対岸の茶屋から川に渡したロープで団子と代金をやり取りするのが観光客に大人気、よくTVでも紹介されます。ここでは、「岩より団子」と言うことのようにです。

(2) 北限の摩崖仏

さて、巖美溪下流の長者滝橋から再び溪谷を横切って北へ、「新・奥の細道」を約3km進むと北限の摩崖仏といわれる達谷窟たつごくのいわやがあります(磐井郡平泉町)。

昔この岩屋に住みつき付近の住民を苦しめた蝦夷の悪路王一味を、延暦20年(801)に桓武天皇に

命じられた坂上田村麻呂が征伐したといえます。彼は、この勝利が毘沙門天の加護のためと信じ、毘沙門堂を創建したといえます。

周囲はおもに鮮新世～更新世前期の火山岩類が分布しています。

達谷窟から太田川に沿って東へ平泉・毛越寺方面に向かう県道31号線をしばらく進むと左手に「鬘石」があります(写真27)。近くの太田川にある姫待滝と共に悲しい言い伝えがあります。

悪路王が京から攫ってきた姫をこの岩屋の上流の「籠姫」というところに閉じ込め、近くの「桜野」でしばしば花見を楽しんだといえます。姫は逃げ出そうとしましたが、姫待滝で待ち伏せられて再び捕らえられ、二度と逃げ出せぬように女の命ともいうべき黒髪を切られてしまいました。彼女の髪を見せしめに掛けた石が「鬘石」と言い伝えられています。

6. 千厩の奇岩「夫婦石」

わが国には「夫婦石」・「夫婦岩」・「女夫岩」・「陰陽石」などと呼ばれる石が各地にあり、子孫繁栄を願って大切にまつられています。一関市からJR大船渡線で約1時間、一関市と気仙沼市の中間にある千厩町にも有名な「夫婦石」があります。

千厩は、奥州藤原氏全盛期に1,000の馬屋が建てられ(千厩の語源)、数万頭の馬の産出地として栄えました。源義経の愛馬「太夫黒」の産出でも有名な町です。

「千厩駅」から徒歩5分ほどの天王山入り口の路傍に「夫婦石」があります。いわゆる「陰陽石」の一



写真28 千厩の夫婦石(男石・陽石)。

種で、陽石は高さ5m、周囲10mと大きなもので(写真28)、正面に立つと圧倒されてしまいます。これに対して陰石は陽石の後側にあり高さ2m、周囲6mの花崗岩塊が節理によって割れたものです(写真29)。特に説明はいらないでしょう。とはいえ、掲示板の紹介文は秀逸なので、一部採録しておきましょう。「夫婦石の雄然たる竜頭は列強なる陽莖に支えられ、天地正大の気はここに始まり。男石の後ろに日本の美風を堅守し、豊満にして慎ましやかな女石は谷間の白百合の如く万人の感動を呼ぶ」とあります。当然ですが、夫婦和合や子授けの神としてあがめられています。これらは、花崗岩質岩で、主に斜長石に富む石英閃緑岩～花崗閃緑岩です。北上山地には個々には比較的小規模ですが、全体として中・古生界の4分の1の分布面積を占めて散在して分布する前期白亜紀深成岩体があり、その1つである千厩岩体といわれるものに属しています。

近年観光資源としても注目され、隣接地には「夫



写真29 千厩の夫婦石(女石・陰石)。

婦石観光プラザおいとこ館」が建設され、ここには高さ71cm、円周90cm、重さ20kg、判面サイズ25cm×25cmという日本一の記念スタンプがあります。押印は有料ですが、一度訪問してみたいかがでしょうか。

それでは、今回はこの辺で、またの御目文字を。

参考文献

- 小形信夫(1976):陸中の伝説. 187p. 第一法規出版株式会社.
吉田 尚・片田正人(1984):宮古地域の地質. 地域地質報告(5万
分の1図幅), 地質調査所, 44p.

KATO Hirokazu (2005): Popular named stones/Letter about stones from Michinoku (no.4) - Interesting stones of Iwate.

<受付:2004年9月9日>